

学びの実感を積み重ねる子ども発見！

小学校「音楽科」3年

「表現したいイメージを持って、音色を追究する」姿

題材名 「いろいろな音のひびきをかんじとろう」
 教材名『おかしなすきなまほう使い』 【3／9時】
本時の目標 楽器の音色を聴き取り、楽器を選んだり、鳴らし方を工夫したりすることで、イメージした「まほうの音楽のもと」をどのように表現するか考えを持つことができる。
 (音楽表現の創意工夫 A表現(3)音楽づくりA)【共通事項】音色(楽器の音色)

本時の授業について

様々な楽器の音色を聴くことを通して、前時にイメージした自分の表現したい「まほうの音楽のもと」(図1)を手掛かりに、本時は様々な楽器を鳴らしたり、鳴らし方を工夫したりして、自分の「まほうの音楽のもと」を創る学習です。

導入では、範唱のCDを使い、歌詞の内容を考えながらみんなで楽しく歌いました。次に、「まほうの音楽」が出てくる場面に絞って音を集中して聴き、範奏の特徴を話し合いました。その上で、「まほうの音楽のもと」を見ながら、一人一人がどのような音楽で表現していくかを考えました。

音楽づくりの場面では、様々な楽器の音を出し、その音を確認しながらイメージに近い楽器の音色や音の出し方を探っていきました。音楽づくりの場面で自分なりに創った表現は、終末でワークシート(図3)にまとめました。

本時は、子どもが感性を磨き、創意工夫していく一連の過程を大切に授業です。まず自分と向き合い、そして友達と関わり、最後にまた自分と向き合うことで、音色を深く追究する姿が見られました。



図1

キラキラのまほう
 なんだけどなあ。
 どうやったらいいかな？



うわーっ。木きんの音、耳がいたい。
 ギラギラしたまほうみたいだね。

実際の演奏を、ワークシートに絵図や言葉で表した「まほうの音楽のもと」に近づけられるように、音色に着目した表現の追究が行われています。

考えを深め、表現を高め合う場の設定

キラキラモクモクのまほうの音楽きいてね。

なんだかギラギラしたまほうみたいだね。

キラキラのまほうなんだけどな。ゆうしさんのもきかせて。

このマレットだと、どんな音がするかなあ？

キラキラした音だね。「にじいろのシャワー」の音だね。私も鉄きんでやってみたいな。

にじいろのシャワーでいるまほうをやるよ。

大松先生は、前時に絵図や言葉を使って、自分の表現したい「まほうの音楽のもと」のイメージをしっかり持たせました。その上で、仲間と交流させたことで、子どもは自分の考えを広げたり、深めたりして、音楽で表現する難しさとともに、楽しさを味わっていました。

【共通事項】を支えとした学習

音楽の学習の支えとなるのは、[共通事項]アに当たる部分です。聴き取らせたい音楽を形づくっている要素に着目して感じ取らせ、それを基に表現や鑑賞を楽しませていきます。



大松先生は、第1時より様々な楽器やマレット等の鳴らす物を準備し、音色に注目できるように楽器に触れる時間を十分に取りました。「この楽器の音は、どのように聴こえる？どんな感じがする？」と音を聴き感じたことを言葉で表現していく活動を繰り返しました。あすかさんが前時にイメージした、表現したい「まほうの音楽のもと」を音楽で表したり、聴き手のゆうしさんが感受したことを伝えたり、あすかさんが再度音楽で表してみるというサイクルを大切に学習が行われ、あすかさんの表現がより深まっていきました。

子どもの変容を見取る工夫

大松先生は、様々な楽器の音を聴かせる際、子どもが聴き取って表した言葉を絵図(図2)で示してきました。



図2

そして、本時の終末の場面では、創意工夫したことを子どもに絵図(図3)でまとめさせました。

大松先生は、あすかさんがイメージに近づけようと試行錯誤していた様子と絵図(図3)を重ね、「絵図の丸の大きさ・描く位置・間隔・重なり・色、「ぼん」と「ぼ」、「ぼーん」から、表現したい音の強さ・高さ・長さ・和音・音色に気を付けて、表現したい音楽を創ろうとしたことが分かるよ。」と価値付けていました。このような価値付けができるのは、題材のポイント、ポイントで一人一人の学びの姿に目を向け、継続的に子どもを見取ってきたからです。また、絵図を用いたことも子どもの創意工夫を(第2観点)を見取る有効な手立てとなっていました。



図3

「じっくりと音や音楽を味わい、自分の思い描く音楽を求める」姿

題材名 「日本の音楽のよさを味わおう」

教材名『さくら さくら』『さくらの主題による変奏曲』【3 / 4時】

本時の目標 自分の思い描く『さくら さくら』に近付けるために、特徴ある段を聴き比べて音楽の変化の特徴に気付き、弦の弾き方を変化させたり、箏のいくつかの基本的な奏法を試したりすることを通して、どのように『さくら』を演奏するかについて、思いや意図を持ち表現する。

(音楽表現の創意工夫 A表現(2)器楽イ)【共通事項】音色(楽器の奏法)

本時の授業について

白井先生は「日本の音楽っていいな」と感じる子どもを育てたいという思いから、我が国の伝統音楽に親しむことのできる授業を構想しました。子どもは第1・2時に特徴的な箏の奏法に親しむとともに、前奏・後奏部分の創作に取り組みました。

自分がイメージしたさくらの曲に近付けようと『さくら さくら』の練習をしている子どもは、白井先生の模範演奏に刺激を受け、既習の奏法を積極的に試し始めました。また、自分の思いやイメージが相手に伝わっているかどうかを、ペアによる聴き合いと試奏で確かめていきました。友達の演奏を聴く中で、子どもは、工夫の視点の1つとなる「奏法の違いによる雰囲気の変化」に気付きました。ペアの奏法に対してアドバイスをしたり、演奏のよさを認め合ったりしながら、音楽を追究する喜びを十分に感じていました。

楽曲との感動ある出会い

「うわあ、すごい」変奏曲三段目の演奏を聴いた子どもの目が、白井先生の指や手の動きを追い続けます。目の前で繰り広げられる華やかな音色や和楽器独特の音の響きが、これまでの子どもの音楽体験や演奏体験と比較して知覚されていきます。



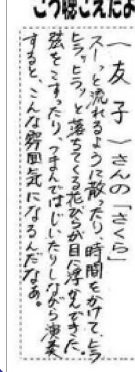
新たな発見、今までにない感じ方に出会う場面を設定することで、子どもの学びへの意欲が高まります。ここに子どもの心をつかむ教師の仕掛けがあります。

演奏を聴いた子どもは「こんな演奏ができるようになりたい」という憧れを抱き、『さくら さくら』の前奏や曲中の装飾音として生かせる奏法を探ろうとしました。何人もの子どもが進んでメモを取りながら集中して聴く姿が見られます。白井先生による魅力あふれる生演奏が子どもの心を揺さぶり、各々が思い描く『さくら』に近付けるためにもっと練習したい、と意欲的に取り組みました。

表現活動と〔共通事項〕とを関連させた指導

「すてきな『さくら』を紹介します」

白井先生が友子さんの演奏を取り上げ、みんなに紹介します。友子さんの演奏を聴いた子どもは、感じたことや自分の演奏との違いを伝え合います。「演奏と演奏の間に『ツズィーッ』とか『ブンッ』とか聴こえたよ」「そうそう、それがいいんだよね。花びらの散り方に変化が生まれる」「弾き方を変えることで雰囲気が大きく変わるような気がする」



子どもは、演奏したり曲を聴いたりしているときに、漠然とした感想を持つわけではありません。音楽的な特徴に即して、想像したことや感じ取ったことなどの理由を探していきます。

奏法を効果的に取り入れた演奏を紹介することで、子どもは友子さんの演奏と自分の演奏との違いに気付き、「音色」という〔共通事項〕を視点として工夫することができることを実感していました。演奏の中で、「音色」の働きによって生み出される特質や雰囲気を感じ、思いや意図を持たせる場の設定がありました。

①寂しそうな感じだね。どんな桜の様子なの？

③それならこんな「輪連」はどうか。(試奏)もっと「シャララン」という感じで、桜が散る様子になると思うけれど。

⑤さっきの演奏に比べると、たくさんの桜の花が散る感じになったね。音の高さや弦の弾き方でも、雰囲気が変わるね。

②花びらが、ひらひらと散るって感じにしたいのだけれど、どうすればいいかな。

④(試奏後)うん！これいいかも。でも、少し物足りないなあ。変化が欲しいんだよね。



思い描く音楽に近付けるために、自分が選んだ奏法を試しています。白井先生が実演した奏法を聴いて「流し爪は風に揺れている様子を表すことができる」「かき爪はシャシャという感じで明るくなる」など、奏法の印象を自分の言葉にして、演奏に取り入れることができるか試していました。また、友達のアドバイスを取り入れた演奏と元の演奏を聴き比べて、試行錯誤しながら、自分が思い描く音楽に近付けていきました。

振り返りの工夫

授業の終末、代表者の演奏を全体で聴き合う場面を設定しました。代表者は、弾き方を工夫することによって音色が変化し、自分が求める音楽に近付けることができたという説明をした後、演奏をしました。そのため、聴いていた他の子どもは、代表者の説明や演奏と自分の取組とを照らし合わせることで、本時のねらいに沿って振り返ることができました。



友達が弾いた「輪連」を参考に音と音との間を空けたら、僕がイメージする「さくら」に近付いた。鈍い音や音の揺れによって花びらの散り方を変化させることができた。さらに音の揺れにこだわって寂しげに散る花びらを演奏してみた。